

おもてなし 『おもてなし』

「雪像の製作中には、観光客の方たちが『写真を撮っても良いですか』と声をかけてくれることも喜んでいる観光客の皆さんを見ると造ってよかったと実感します」と笑顔で話す西さん。

西さんが雪像製作を始めたきっかけは、平成24年11月の大規模停電。仕事で温泉街へと続く道路の改築工事を担当していた西さんは、暴風雪による倒木で発生したバスの渋滞に登別国際観光コンベンション協会の職員などと共に対応。その際に同協会の『おもてなし』の気持ちを実感したといいます。

仕事では、多くの方の生活に直結する『道路』に携わることが多く、完成後にその道を利用する人々のことを考えて業務に当たってきたという西さん。もっと違った形での『おもてなし』ができないかと考え、雪像製作を思いついたといいます。

「雪像を造ったことはありませんでしたが、さっぽろ雪まつりで見っていた工程を思い出しながら造りました。同僚と2人で完成まで数日間。頭の中でイメージして、チェーンソーやのこぎりなどで形を整えました」と初めての雪像作



▲夜にライトアップされ、姿を浮かび上がらせる雪像

りを振り返る西さんは、それ以来、毎年、湯鬼神を造り上げてきました。雪像が、年々地域の人たちからも認知され、製作を手伝ってくれる人も増えてきたという西さん。「今年も暖冬で雪像ができるかどうか心配でしたが、仲間が雪を集めてきてくれて、何とか造ることができました。多くの人に支えられた湯鬼神です」。

自分ができると

「自分ができると『おもてなし』で、少しでも魅力あるまちにながれば」という西さんは、市内のさまざまなイベントにも積極的に参加しているといいます。

「今年も、市制施行50周年。登別温泉湯まつりも、次回が50回目の節目の回なので、壁面にチャレンジしたい」とさらなる『おもてなし』に意欲を見せます。



KIRARI

にし たい と
西 泰斗さん (柏木町)

みなさんは、毎年開催されている登別温泉湯まつりの開催時期の数週間、湯鬼神の雪像が登別温泉街に現れることを知っていますか。高さ約2メートルの勇壮な雪像は、登別温泉を訪れた多くの観光客の皆さんを出迎え、そして見送っています。

今号では、7年前の当初から雪像製作に携わっている西泰斗さんに雪像に込める思いを伺いました。

おもてなしの気持ちを伝えたい



◀インターネット上で雪像製作の様子を動画で見ることができます。



昭和40年、登別市生まれ。54歳。

札幌市内の短期大学を卒業後、札幌市内での勤務経験を経て、平成10年、登別市に帰郷。(株)草塩建設に就職し、多くの工事に携わるほか、除雪支援や登別地獄まつりへの協力など、地域貢献に尽力している。